

八幡浜地区の二次救急、管外搬送解消を歓迎

越智元郎

(68歳、医師、市立八幡浜総合病院救急・災害対策室長)

本年3月9日の八幡浜・大洲圏域災害医療対策協議会で、これまで搬送先を決められず宇和島市や松山市に管外搬送していた八幡浜地区の、土曜日日中の二次救急(入院や手術が必要となる傷病者)の担当病院が決まった。

八西地区の二次救急患者には市立八幡浜総合病院が対応して来たが、同病院の勤務医師数は新臨床研修制度の影響もあって、平成15年の37人から21年には25人に(特に内科は12人から4人に)減少した。これらのことから各方面への協力依頼の上で、平成20年6月週2回(水・土曜日)の救急患者受け入れを停止せざるを得なかった。その後、県の調整による内科医師の派遣、平成21年の八幡浜・大洲圏域地域医療再生計画などにより医師数が増加し、また大洲地区との協議により火・木・土・日曜日の夜間は広域輪番体制で対応できることになっていた。

この間、長時間搬送となった傷病者と消防本部には多大なご苦勞をおかけした。また、地域全体で医師不足・看護師不足が進む中で、救急患者受け入れのための調整に応じて下さった医療機関各位に感謝申し上げたい。

(2021年3月29日、ある新聞の読者欄に投稿しましたが、残念ながら不採用でした。)